



## Topic 04 酪農総合研究所 要覧を作成しました！

酪農総合研究所での事業や研究概要を皆様に分かりやすくお知らせするために新たに「酪総研要覧」を作成しました。本要覧にはこれまでの研究成果や各事業についての説明が掲載されており、一目で理解できる内容となっています。ぜひご一読ください。

### 職員紹介

皆様に親しみやすい記事を作成します！



副部長  
越智成東



研究リーダー  
柳瀬兼久



研究主事（獣医師）  
野崎則彦



研究員  
佐々木貴史



研究員  
大山冬馬

「酪農の未来を拓くお手伝い」  
要覧  
ORGANIZATION CATALOGUE  
おかげさまで創立50周年を迎えました~

酪農総合研究所  
Research & Development Center For Dairy Farming  
Love Earth, Love Life, 雪印メグミルク

※PDF版はタイトルクリックで当該記事参照可能

## Topic 05 酪総研選書（No.94）が日本農業市場学会で「学術賞」を受賞！



酪農総合研究所では、日頃の調査・研究の成果や酪農関連の話題をもとに企画・調整を行い、デーリイマン社より「酪総研選書」として書籍を出版しています。

2024年3月に発刊された「躍動する中国の酪農乳業と生乳流通」が、2025年度日本農業市場学会（7月に北海道大学開催）にて「学術賞」を受賞いたしました。

本書は、2008年メラミン事件以後、大きく変化した中国の酪農乳業について、詳細な現地調査をもとに、生乳流通の変化や中国酪農の現状をまとめた内容です。中国における酪農乳業と生乳生産構造、内モンゴルの中規模経営の特徴、大手乳業メーカーによる垂直調整の影響などについて、分かりやすく解説されています。中国の乳製品需要の高まりを背景に、今後の市場動向を知る貴重な一冊となっています。なお、本書籍の著者の1人でもある北海道大学大学院食料農業市場学研究室の清水池義治准教授は、2006年から雪印乳業の酪農総合研究所にて研究員として勤務されておりました。

<購入をご検討の方へ>

株式会社北海道共同組合通信社のHPよりご購入いただけます。

酪総研選書二次元コード→



### 酪総研 コラム

#### NO TENKIN, NO LIFE.

転勤を敬遠する傾向が強くなっているそうだ。

20～30代の若い世代は7割以上が転勤を嫌がっているという。就活学生の3割以上が転勤の多い企業には行きたくないという調査結果も目についた。ライフスタイルが変化し、勤務地が頻繁に変わることに抵抗を感じている人が多くなっているらしい。

我々昭和生まれの会社員は異動の辞令が出たら転勤するのが当たり前、転勤族という言葉があるように日本各地で仕事をしてきた。

時代が変わってワークライフバランスが注目され、個人の価値観が尊重されるようになってきた。また、リモートワークや在宅勤務が増加し、出社しなくても仕事が出来る環境が整ってきた。

雇用体系が変化する中で、企業の従業員エンゲージメント向上への取組みが重視されている。転勤をきっかけに離職する社員が増えていることから、これに歯止めをかけるために転勤制度を見直す企業も始めていると聞く。

転勤は時代遅れになっていくのだろうか。私自身、北海道、東日本、西日本と10回以上の転勤、単身赴任も2回経験してきた。それぞれの地域特性があり、知識や経験を積み重ねる事が出来た。関係先の仕事相手との人間関係を築き、様々な経験が人生の肥やしになってきたと思う。

私事では各地の名所旧跡に足を運び眼福を得、酒場を探訪しほろ酔い、ご当地の味覚も楽しんできた。その土地の風土や文化に触れる事が出来たのも転勤のお陰様だ。もし転勤の無い仕事に就いていたら、こんな経験は出来なかつたし人生がまるで違っていた。今の時代、メディアやインターネットで何処に居ても様々な情報を手に入れる事ができる。

しかし、実際にその土地に住み体験する事には敵わない。転勤は必ずしもネガティブなものではなく人生において価値のある経験が出来る機会になる。私は転勤が無かったら人生の半分以上を損したのではないか、日本全国で仕事が出来て楽しい会社員人生だったと定年退職間近の昭和生まれは顧みているのである。

さて、これから人生二周目は何をしようかな・・・。

（コラム執筆：M.T）

### お知らせ

#### ミルクフェスティバルで 酪総研ブースを出展！

9月20日（土）に雪印メグミルク創業100周年を記念して「ミルクフェスティバル in 苗穂」が開催されました。酪総研チームは搾乳体験と酪総研ブースにて日頃の研究成果や酪農についての説明を行いました。

当日ご来場した約1,200名の地域のみなさまに100年の感謝をお伝えすると同時に、搾乳体験に参加された460名を超える皆様へ酪総研について知っていただくことが出来ました。酪総研ブースでは、実際の牧草サイレージの臭いを嗅いでみたり、手で実際に触ることで、自給飼料についての理解を深めることができました。



お客様に説明する越智副部長



酪農部・札幌工場・酪総研合同チーム

#### 【RDCD NewsLetter】

所在地：〒065-0043 北海道札幌市東区苗穂町6-1-1

発行人：雪印メグミルク株式会社 酪農総合研究所 津田知亮

TEL：011-704-2131 FAX：011-704-2417

HPはこちらから！



酪農総合研究所  
Research & Development Center For Dairy Farming

